

## 【エクアドル内政・外交:2023年9月】

### 1 内政

#### (1) デング熱の発生状況

1日、エクアドル保健省は、現在までに16,289人のデング熱患者が確認されており、うち16人が死亡した旨全国的なデング熱患者の発生状況について発表した。特に、マナビ県、エル・オロ県及びサント・ドミンゴ県で患者が大幅に増加しており、保健非常事態宣言が発動された。これを受け、各地の保健所の職員は市民や地方自治体と協力し、蚊の繁殖を防ぐ対策を行っている。

#### (2) 先住民族同盟(CONAIE)は決選投票に進む大統領候補者2名を支持しない旨発表

8日、イサ CONAIE 会長は、CONAIE は今般の大統領選の最終候補者のどちらも支持していない旨発表した。他方、同会長は、自分たちの関心事を受け入れてくれる候補者を支持すると宣言し、直接ノボア候補及びゴンサレス候補と対談した後、投票先を決める旨発表した。イサ会長の同宣言に対し、ノボア候補は、イサ会長はコレア派として知られていることに言及しつつ、先住民族連合の提案からは距離を置く旨述べた。なお、CONAIE は、大規模な経済グループからの債務回収及び民営化反対等について取り組むよう、大統領候補に要請している。

#### (3) 選挙管理委員会(CNE)による信任状配布日程の発表

8日、CNE は、遅くとも12月第2週までに、10月15日の決選投票にて選ばれた新大統領に信任状を交付する予定である旨発表した。アタイムン CNE 会長によると、11月末から12月8日にかけて国会議員への信任状交付が予定されており、その後、新国会により第1回国会が召集され、国会議長等の幹部が選出される。その後10日間で新大統領を任命する必要があるため、12月11日には新大統領へ信任状が交付されるとの見込みである。他方、やり直しが決定した在外投票について上訴があれば日程は変更となる可能性が高い。

#### (4) 選挙裁判所によるコンストウルジェ(Construye)党の法的訴えの棄却

11日、選挙裁判所(TCE)は、コンストウルジェ党が提出した、在外投票を無効とする CNE の決定の棄却を訴える控訴を棄却した。同裁判所はその判決の中で、同一の請願が、両立しない主張もしくは同一の手続きでは立証できない主張を提示している場合、または裁判官がそれらすべてについて管轄権を有していない場合、不受理とされるとしている。

#### (5) ラッソ大統領による奨学金授与

11日、ラッソ大統領は、エクアドルの青少年が高等教育においてこれまで以上に、包括的で質の高い学問的訓練を通じて機会を得ることを可能とするため、専門・テクノロジー教育奨学金(Becas Tec)を国内15,427名の学生に付与した。モンタルボ高等教育・科学・技術・革新長官(Senescyt)は、大学への予算も増額し、2億ドル以上の歴史的な増額となったと述べた。また、同長官は、ラッソ大統領のリーダーシップのもと成し遂げられた教育改革として、55%の定員増加、学生が自分の適性や才能に応じて職業を決められるよう選択式を導入した

ことなどを挙げた。

#### **(6) 第二回大統領候補者間討論会のテーマ**

CNE は、10月1日に開催される第2回討論会は、討論会委員会が定めた経済、治安、社会、政治の4つの主要テーマで行われる旨を発表した。討論会では、各テーマに関する2つの質問が行われる。候補者は2分間で各テーマ毎の質問に答え、その後、もう一方の候補者が25秒間で質問を行い、最後に討論を始めた候補者がさらに1分間で質疑に答えなければならない。本討論会は、国内のテレビ、ラジオ、SNS 等を通じて放送される予定である。第1回討論会の反省から、テーマを4つに絞り、また、司会者もジャーナリストのルース・デル・サルト氏1人となる。

## **2 外交**

### **(1) 国際南南協カデー記念式典**

13日、国際南南協カデー(9月12日)を記念し、海外NGO、外交団、有識者等エクアドルにとって主要な協カパートナーが外務省に招集され、より持続可能な開発を達成することを目的とした記念イベントが開催された。同イベントの中で、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会(ECLAC)によって作成された、エクアドルにおける国際協カ管理の再構築に関する報告書が発表され、国際協カに関する国家管理を分析し、パートナー国との国際協カのあり方についてのいくつかの改善点が提言された。本イベントの開会にあたり、マンリケ外務大臣は、エクアドルは世界で最も重要かつ先駆的な国際協カのあり方を提供していることを強調した上、ガラパゴス諸島の環境保全のための債務スワッププログラムについて言及した。

### **(2) 国連総会ハイレベル・ウィーク出席のためのラッソ大統領による公式訪米**

17日、ラッソ大統領は第78回国連総会のハイレベル・ウィーク及び各作業部会に参加するため、10日間にわたる米国公式訪問を開始した。米国滞在中、ラッソ大統領はニューヨーク(9月17日～22日)及びワシントン(9月22日～27日)に滞在予定であり、マンリケ外務大臣、ルアレス保健大臣ほか、計7名の随員が同行する。米国滞在中、ラッソ大統領は、二国間貿易協定締結間近の韓国大統領との二国間会談等を行う予定である。

### **(3) ラッソ大統領による米国政治家への勲章を授与**

19日、ラッソ大統領は滞在中のニューヨークにて、ビル・クリントン前米大統領及びクリス・ドッド元上院議員に勲章(大十字章)を授与した。ラッソ大統領は、授与式において、両氏がエクアドル政府が推進する自然保護のための債務交換を支持したことを強調した。

### **(4) 米・エクアドル開発促進のための新たな協定に署名**

15日、マンリケ外務大臣とフィッツパトリック駐エクアドル米国大使は、約4,100万ドルの開発促進のための協定に署名した。これらの資金は、エクアドルと米国間の開発協定(DOAG)

の枠組みで供与されるものである。これにより、持続可能性や繁栄のための民主的ガバナンスといったエクアドルの優先分野での取り組みを支援するための追加プロジェクトが実施されることとなる。マンリケ外務大臣は、調印式において、米国国際開発庁(USAID)と連携し、米国政府との二国間関係を強化・深化させるというラッソ大統領のコミットメントを強調した。一方、フィッツパトリック大使は、今回の調印は、エクアドル国民の発展と幸福に対する米国国民の継続的なコミットメントを再確認するものであると述べた。

#### **(5)ラッソ大統領の第78回国連総会一般討論演説**

20日、ラッソ大統領は第78回国連総会一般討論演説を行い、生態系移行に関する政策、エル・ニーニョ現象、児童の栄養失調問題、移民政策、国連安保理理事国としての責務及び国境を越えた犯罪等の課題に対し、引き続き国際社会一丸となって立ち向かう必要がある旨主張した。

#### **(6)伊韓国大統領との二国間首脳会談**

21日、ラッソ大統領は、第78回国連総会出席の機会を利用し、伊韓国大統領と会談した。同会談において、両首脳は、政権交代までに二国間経済連携協定(SECA)の正式な署名が実施できるよう、引き続き調整していくことを確認したほか、女性の権利、平和維持、安全保障、サイバーセキュリティ等について意見交換を行った。

#### **(7)米国疾病対策予防センターがキトに事務所を設置**

22日、米国保健社会福祉省の下部組織である疾病対策予防センター(CDC)がキトに事務所を置くことが決定された。これを受け、ルアレス保健大臣は、ハワード・ザッカーCDCグローバルヘルス担当副所長との間で、新型コロナによるパンデミックのような新たな脅威の予防に向けた保健分野での技術協力を強化することを目的とした覚書に署名した。

#### **(8)米・エクアドルIUU漁業対策に関する協定に署名**

27日、エクアドルと米国は、エクアドル海軍と米国沿岸警備隊が、海上における麻薬取引や国際組織犯罪と闘い、違法・無報告・無規制(IUU)漁業などを阻止するために、二国間協力と合同海上作戦を推進し、相互運用性を向上させることを目的とした協定に署名した。ワシントンD.C.で行われた調印式において、マンリケ外務大臣は、本協定は、エクアドルと米政府が、人類共通の敵である国際組織犯罪と闘うという決意を再確認するものである旨述べた。取締り活動は、無国籍・無国籍と思われる船舶等に対して、特定の規制を設けて実施される予定である。

(了)